


学校名：長岡市立与板小学校	
 <p>Viet Nam</p>	氏名：高松敏之
	[担当教科：] 言語障害
● 実践教科等：総合的な学習・外国語活動	
● 時間数：8時間	
● 対象生徒：5年生	
● 対象人数：70人	

1 単元名

比べてみよう「米作り」見つけてみよう「同じところや違うところ」～稲作を通してベトナムを知ろう～

2 単元の目標

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

・日本以外にも米を主食とし稲作を行っている国があることを知り、稲作の方法や品種、育て方や食べ方などを比べる活動を通して、お互いの米作りの似ているところや良さに気付く。(多面的・総合的に考える力)

・総合的な学習で育てている米作りの様子や、日本の米の品種、料理などをデジタルストーリーテリング(デジタル紙芝居)の手法を用いて、英語と日本語でベトナムの学校などに発信する。(コミュニケーションを行う力)

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

4 単元の指導について

(1)教材観

与板小学校では、5年生が総合的な学習として、自分たちで苗から育て収穫して精米するまでの過程を体験的に学ぶ。社会科でも、新潟県南魚沼市で行われている米作りについて、日本の産業の一つとして学習する。学区はもちろんだが、市内には多くの水田が広がっており、子どもたちにとって稲作は、小さな頃から日常的に見ている風景である。

本単元で取り上げるベトナムは、世界有数の米の産地であり、同時に日本が米を輸入している相手国の上位にも位置している。ベトナムの地方には水田が多くあり、その風景は外国ではないかのようだ。また、山岳地帯では棚田があったり、陸稲が育てられていたりする。加えて、米を使った料理も非常に多様である。子どもたちにとって、学んできた米の育て方や親しんできた米料理などを観点にして、ベトナムの米文化について学ぶことは、多様な見方や考え方を広げるきっかけになるだろう。

後半の外国語活動では、ハノイの中学校とビデオクリップを用いた交流を設定した。交流先の中学校では、外国語として日本語を学習している。外国語活動の中で、英語を学び始めた子どもたちにとって、ビデオクリップの中で英語だけでなく日本語を使えることは安心感につながるだろう。この交流を通して、コミュニケーションの手段として英語を使う経験をしたり、日本の稲作や米料理のよさについて改めて考える機会になったりすることを期待している。

(2)児童生徒観

男子26名、女子44名、計70名の学年である。元気のいい男子と、物静かな女子が多い学年である。人前で発言することに抵抗を感じている児童が多かったが、算数のように、答えが明確なものに関しては発言しようとする児童が増えてきた。しかし、自分の考えを問われると、自信のなさからか、発言が少なくなり、特定の児童ばかりが目立つ。

他の授業で話し合い活動を多く取り入れてきた。様々な意見を交流させることで、多面的な考えに触れたり、自分の考えに自信がもてたりできるよう取り組んできた。

(3)指導観

○興味をもたせるような資料の提示

外国について単元としてまとめて学習するのは、子どもたちにとって初めてのことである。そこで、導入ではベトナムの基本的な情報を、写真を使いながら2択のクイズ形式で紹介していき、興味や関心を高める。ベトナムの米文化については、3つの観点(育て方、産地、米料理)について学習するが、実際

の写真や現地のベトナム人や日本人の意見、食べ物(煎餅)などを教材として用意し、日本の米作りと似ているところやベトナムの良さに気付かせたい。

○少人数による話し合い活動

前半の総合的な学習は学年で、後半の外国語活動は学級で授業を行うが、単元を通して生活班を基本としたグループ学習を進める。総合的な学習では、ジグソー法を用いた学習を取り入れ、自分の学びをキーワードで示しながら、班の仲間と共有させる。また、写真資料を読み取る際には、フォトランゲージの手法を用いて、各自が気付きを大切にしながら学習を進めていく。

このような学習を通して、自分の意見を大切にすることや、お互いの発表を聞き合うよさを経験させたい。

○他者と関わっていこうとする気持ちを育てる

単元の後半に入る際に、ベトナムの中学生が作成した自己紹介のビデオクリップを子どもたちに視聴させ、自分たちが発信していく相手を意識させる。デジタルストーリーテリング(デジタル紙芝居)の作成では、作成途中で振り返りがし易いよう ICT を活用する。制作途中の作品を視聴することで、話し合いが活発になることを期待する。ビデオクリップのやり取りを通してベトナムの中学生と、ICT と活用したデジタル紙芝居の作成を通して班の仲間と、積極的にコミュニケーションをしようとする姿勢を育てたい。

5 評価規準

(1)総合的な学習(前半4時間)

観点	課題を見付ける力	情報を活用する力	自分の思いや願いを実現する力	自己評価・自己理解する力
評価規準	ベトナムについて興味・関心を持ち、米文化に関する課題を考える。	ベトナムの米文化に関する写真や資料から、特徴を見付ける。	各自が観点毎のコースで学んできたことを、自分の班に戻ってキーワードと共に伝える。	日本とベトナムの稲作について、お互いの良さに気付いている。
評価方法	発言 ワークシート(個人)	写真資料上の記述 ワークシート(個人)	ワークシート(班) ワークシート(個人)	発言 ワークシート(個人)

(2)外国語活動(後半4時間)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に対する気付き
評価規準	自分の思いがはっきり伝わるように、声の大きさや発音に気を付けながら、日本の米文化について紹介している。	稲作について自分が気に入っていることや、好きな米料理などを紹介する表現を、適切に使っている。	To Hoang 中学校との交流から、世界には様々な人たちが、様々な方法で学習をしていることに気付く。
評価方法	ワークシート(個人) ビデオクリップ(班)	ビデオクリップ(班)	発言 ワークシート(個人)

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	ベトナムの米文化について自分が知りたいことを考えよう。(総合的な学習)	○ベトナムに興味を持ち、ベトナムの米に関する疑問を考える活動を通して、今後の学習のめあてをもつ。	○ベトナムについて知っていることを発表したり、2 択のクイズを解いたりしながら、ベトナムに関する基本的な情報を学ぶ。 ○ベトナムの米について知りたいことを、仲間と相談しながら考え、今後の学習についてのめあてをもつ。
2	与板(日本)の米について3つの観点からまとめよう。(総合的な学習)	○班毎に協力して意見を出し合い、3つの観点(育て方、産地、米料理)から、与板(日本)の稲作についてまとめる。	○与板(日本)の稲作についてワークシートを使い、3つの観点(育て方、産地、米料理)からキーワードでまとめる。 ○ベトナムの稲作について、班の中で自分が調べたい観点を決める。
3	ベトナムの稲作について3つの観点から調べよう。(総合的な学習)	○班毎に協力して調べ活動を行い、3つの観点(育て方、産地、米料理)から、ベトナムの稲作について理解を深める。	○ベトナムの稲作について3つの観点(育て方、産地、米料理)別に分かれ、フォトランゲージを行い、自分の気付いたことをキーワードでまとめる。 ○班に戻り、自分が学んだことを、キーワードで示しながら、他の人と共有する。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

4	与板(日本)とベトナムの稲作を比べてみよう。(総合的な学習)	○与板(日本)とベトナムの稲作について、3つの観点(育て方、産地、米料理)から比較し、それぞれの良さに気付く。	○3つの観点(育て方、産地、米料理)別に分かれ、資料から読み取ったことをキーワードでまとめる。 ○班に戻り、自分が学んだことを、キーワードで示しながら、他の人と共有する。 ○班の中で、与板(日本)とベトナムの稲作について、どちらがよいか(又はどちらにもよさがあるか)話し合う。
5	与板の米文化をベトナムの学校に紹介しよう。(外国語活動)	○「What's this~?」の表現や簡単な日本語を使って、与板(日本)の米文化について、ベトナムの学校に発信する活動に見通しをもつ。	○交流先の学校(To Hoang 中学校)から送られてきたビデオクリップを紹介する。  To Hoang 中学校のビデオ ○デジタルストーリーテリング(デジタル紙芝居)の手法を使って発信することを知り、班毎に自己紹介の場面を練習したり、録音したりしながら、この手法に慣れる。 ※作品は Windows Moviemaker で作成する。
6	紹介する内容を決めよう。(外国語活動)	○班毎に紹介したい内容を決め、ストーリーを考える。	○各班で紹介したいテーマ(稲作や米に関するもの)を決める。 ○テーマに沿って自分が紹介する内容に合う写真を選び、セリフを考える。 ※総合的な学習として活動してきた写真を児童用のサーバに用意しておく。
7	写真に合わせてセリフを練習しよう。(外国語活動)	○「What's this~?」を使って、写真の内容を紹介する表現の仕方を練習する。  写真に合わせてセリフを録音している様子	○全体で写真を紹介する流れ(英語→簡単な日本語)を練習する。 ○班毎にどのように紹介するか決まったら、実際に録音しながら、繰り返し練習する。  子どもたちが選んだ米に関する写真
8	セリフをレベルアップして作品を仕上げよう。(外国語活動)	○紹介の仕方を工夫したり、英語表現を増やしたりしながら、作品を完成させる。	○全体で他の班の作品を見ながら、工夫している点(紹介の仕方や英語表現の取り入れ方)に気付き、新しい英語表現などを練習する。 ○班毎に紹介の仕方について修正点を相談し、録音と確認を繰り返しながら作品を完成させる。

7 授業事例

小単元名【ベトナムの米文化について自分が知りたいことを考えよう】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月27日(金) 第5限

(イ)実施会場 与板小学校 特別活動室

(ウ)本時の目標

- ・ベトナムに興味をもち、ベトナムの米文化に関する疑問を考える活動を通して、今後の学習のめあてをもつ。

(エ)指導のポイント

- ・ベトナムに興味をもてるように、2択や3択クイズの形式で、基本的な情報を紹介していく。
- ・ベトナムのちまきや水田の様子を提示し、日本と似ているベトナムの米文化について調べてみたいことを考えさせる。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	ベトナムと稲作についてのつながりを紹介する。【4】	「世界のコメ生産・輸出と日本へのコメ輸出の上位国」トップ5の表から、3つの観点で上位に入る国がどこかを考える活動を通して、ベトナムが世界有数の米の生産国であることを知る。	一斉	・プロジェクト研究「主要国農業戦略」研究資料 第12号(農林水産政策研究所)(2012年)より	
展開 30分	ベトナムについての基本的な情報を紹介する。【4】  とにかくハイクル ベトナムの米文化に関する問いを考えさせる。【4】  篠田 紗枝 先生	ベトナムについて知っていることを紹介させたり、ベトナムに関する2択クイズを解いたりしながら、基本的なことを知る。 ・ベトナムの位置と日本からの距離 ・気候 ・首都 ・言語 ・民族(54民族) ・街や学校の様子など 「ベトナムで出会った日本」として、3択クイズの形式で以下の3点を紹介する。 ・マンガ ・青年海外協力隊隊員 ・カトウ一族のちまき  バインスンチャウ   ナムザン群周辺の水田	一斉 一斉 個人	・児童の意見はキーワードのみ板書していく。 ・最初にベトナムについて、児童が知っていることを発表させ、それから2択クイズ形式で基本的なことをテンポよく紹介していく。 ・気になったキーワードはワークシートにメモさせる。 ・近くの人と相談させてから挙手させる。その際に、数人から選んだ理由を紹介してもらう。 ・ベトナムと日本の関わりを説明する例として、マンガと青年海外協力隊隊員を挙げる。 ・カトウ一族のちまきやベトナムの水田風景を、日本の稲作と似ている例として挙げる。	・ベトナムの米文化について興味をもち、似ている点や、異なる点を予想できたか。 (発言)
まとめ 10分	単元前半のめあてをつくる。【1】 本時の感想を書く。	出てきた問いをキーワードでまとめながら、前半の単元のめあてを考える。 自分が「わかったこと」「気付いたこと」「疑問に思うこと」等を感想に書く。	一斉 個人	・単元後半(外国語活動)のめあても、この場で紹介する。	・ベトナムの米文化について、自分の考えをもてたか。 (ワークシート)

(2) 授業の振り返り

【成果】

- ・5年生が総合的な学習や社会科で学んできた米をキーワードにして導入したことで、子どもたちにとって身近ではないベトナムという国に興味や関心をもたせることができた。
- ・日本のちまきによく似ているカトウ一族のちまきやベトナムの水田の様子を提示しながら、「日本とベト

ナムの米に関する『もの』『こと』は似ているか問うことで、前半の単元(総合的な学習)のめあてを「ベトナムの米の育て方や、米の料理を調べよう」と決められた。

【課題】

・単元のめあてにつながる問い(日本とベトナムの米文化の相違)では、事前に予想した以上にいろいろな考えが出てきたため時間が足りなくなり、感想を書く時間が無くなってしまった。前半には子どもたちが興味をもちそうなベトナムに関する内容を2択形式で紹介したが、少し内容が多かったように思う。教材として提示する情報の量や、その教材を子どもたちがどの程度読み取れるか等、教材の選定については本時だけでなく他の総合的な時間でも感じた課題である。

(3) 使用教材

- ① ワークシート(前半の総合的な学習用)
- ② ベトナムで撮影した写真やビデオクリップを使って作成したスライド
- ③ トウイアン障害者リハビリテーションセンターで働く青年海外協力隊 篠田紗枝さんの写真と手紙
- ④ クアンナム省ナムザン群で暮らすカトゥー族のちまき(Banh Sungtrau)や周辺地域の水田の写真

(4) 参考資料等

・プロジェクト研究「主要国農業戦略」研究資料 第12号(農林水産政策研究所)第2章 ベトナム—コメ政策のジレンマ(2017年10月4日閲覧)

http://www.maff.go.jp/primaff/kanko/project/attach/pdf/160331_27cr12_02_vn.pdf

・ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み(2017年5月11日閲覧)

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf

8 単元を通じた児童生徒の反応/変化

○日本とベトナムの米に関する「もの」「こと」について、似ている点や異なる点についての予想(第1時)

- ・米の育て方 ・機械化(の状態) ・水田の形 ・耕し方
- ・米の品種 ・生産量 ・収穫する回数 ・育ち方の速度
- ・米料理 ・(米を使った)お菓子

※社会科で現在の日本の稲作について学んでいたもので、その点に注目する意見が多かった。

○日本とベトナムの米に関する「もの」「こと」について、似ているところや良さ(第4時)

- ・日本とベトナムには似ている米料理があるけれど、ベトナムには日本にない面白い料理がある。
- ・初めは日本のほうが優れていると思ったけど、(ベトナムの)煎餅を食べてどちらも美味しいことがわかった。
- ・ベトナムは米で麺や春巻きの皮などを工夫して作っているし、日本は米の育て方が機械化されているところが優れているので、どちらにもよさはある。
- ・一番驚いたのはベトナムでも(稲作に)機械を使っていたことで、田が広いのでたくさんの米が食べられると思った。

※3、4時はコース毎に分かれて学習し、授業の最後に班毎に気付いたことを共有する形で学習を行った。写真や動画、具体物から、ベトナムのよさに気付き、積極的に班の中で紹介し合う姿が見られた。

○ベトナムの米の育て方や米料理で気になったこと(単元終了後)

- ・なぜ麺を米で作ろうとしたのか ・米を加工したものを食べるのはなぜか
- ・他に米を使った料理は、どんなものがあるのか
- ・なぜ機械化している場所と、機械化していない場所があるのか

※米を加工して食べる文化に興味をもった子が多かった。また、米を商品として作っている地域と、米の生産に苦勞している山岳地帯の違いを考えるには時間が足りなかった。

○自分が大人になった時に、日本とベトナムが「こんなふうになったらいいな」と思うこと(単元終了後)

- ・ベトナムの米があまり作られない所で、日本の育て方を行う
- ・日本の技術でベトナムの田を耕地整理して、機械がもっと使えるようにしてあげたい
- ・日本の農家の人々がベトナムのよさを知り、一緒に米作りをする

※育て方コースや産地コースの子どもたちには、ベトナムの山岳地域の米作りの様子は驚きだったが伺える。現地でも米の生産量を向上させようと活動している NGO の取組を紹介したが、この課題に焦点を当てて全体で考えれば、もっといろいろな意見が出てきたと思う。

- ・日本とベトナムでお菓子作りをコラボレーションする
- ・ベトナムと日本で料理を開発してほしい
- ・ベトナムの米で、すし屋を作る
- ・ベトナム料理「フォー」の専門店を日本に作る

※亀田製菓が現地工場生産している煎餅は、日本とベトナムの協働作業の例として子どもたちにはわかり易かったようだ。米料理で協働していくことに多くの意見が出た。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

P【計画】

現任校の5年生が行っている総合的な学習に関連させた内容で実践内容を考えた。このような実践は初めてだったので、前半の総合的な学習を考える際に「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」のパンフレットが非常に役に立った。持続可能な社会づくりの構成概念として「多様性」を取り上げ、「総合的に考える力」や「他者と協力する態度」を育てたいと計画した。

また、事前研修を通して単元構成について考える場面が複数あるので、海外研修中は積極的に資料や情報を得ようと行動することができた。

D【実践】

ベトナムの稲作について調べる場面では、知識構成型ジグソー法の手法を用い、各自が班に戻って自分の学びや気づきを共有する形をとった。また、子どもたちが教材から課題に対して気付いたり、考えたりできるよう、ベトナムの稲作に関する写真や動画、実際の米や米菓などを用意した。

後半の外国語活動では、最初にベトナムの中学校からのビデオレターを視聴し、意欲を高めることができた。班毎に総合的な学習で育ててきた米作りについて、簡単な英語と日本語で紹介を行ったが、ビデオを見ながら話し合ったり、お手本を聞きながら英語の練習をしたりする姿が見られた。

C【検証】

提示した資料は、海外研修で入手したものを手掛かりに、現地で知り合った方々(日本人、ベトナム人)から協力いただき用意した。特に写真や動画などは、ベトナム語で検索するほうがよいものに巡り合えた。これらを、授業後に書いてもらう子どもたちの振り返りを参考にして、教材として提示していったが、写真の量が多かったり言葉が難しかったりして十分な読み取りができない場面があった。

また、ベトナムの中学生との交流や教材として扱った亀田製菓が現地工場で作った煎餅などのおかげで、ベトナムを身近に感じ「一緒に何かができそう」と考える児童が多く見られた。

A【改善策】

単元終了後に子どもたちの感想にあった「ベトナムとの協働」の部分を、授業の中でもっと扱っていくなら、単元の構成から考え直す必要がある。また、今回多くの資料を得たが、教材として提示するなら、もっと吟味が必要だと感じた。

外国語活動と関連させた交流活動は、英語をコミュニケーションの手段として使う場を提供することになり、学習への動機づけにすることができた。

限られた時数の中で新しい学習を入れ込むのは大変だが、いずれも年間指導計画に大きな変更を加えないように行ったので、今後も見直しを行いながら継続していければと考えている。

10 教師海外研修に参加して

以前、ベトナムの学校から声を掛けていただき、「伝統的な踊り」をテーマにビデオクリップの交換を中心とした交流をさせていただいた。事前に担当の先生と打ち合わせをしたり、市内在住の留学生の方から子どもたちへお話をさせていただいたりしたが、この研修に参加して自分自身がベトナムについて、ほとんど知らなかったことに気付かされた。それくらい、教師海外研修を通して得られた情報量は多いものだった。

現地に行って、人のつながりができたことも大きい。青年海外協力隊の篠田さんからは「海外で活動すること」について子どもたちにメッセージをいただいたが、日本食レストラン紀伊の小林さんからは、教材として煎餅を送っていただいたり、ベトナムの米料理についての自身の考えを紹介していただいたりした。また、FIDRの大槻さんやCatu族のTap先生、ホームステイでお世話になったDuongさんからは、ベトナムの稲作について実際の様子を教えていただき、教材として使わせていただいた。ベトナムの中学校とのビデオクリップによる交流は、友人のNgaさん、Huyenさんの協力があって実現できたと思う。また、与板小5年生の先生方から理解をいただき、計画から実際の授業まで、共に活動していただいた。このように多くの人の支えがあったからこそ、今回の実践を行うことができたと感じている。

自分はこれまで、専門としている情報教育の分野で「ICTを活用した国際交流」を行ってきた。子どもたちは、学習を通して学びや気づきがあったが、相手と協働していくところまで意識が高まることは無かった。単に交流を行うだけでなく、「持続可能な社会づくり」を考慮した学習活動と組み合わせることで、子どもたちの意識が変わってくることを自分自身が学んだ。

子どもたちが将来、他国の仲間と協働して活動したり、学習したりする際のきっかけになることを願いつつ、今回学ばせていただいた「開発教育・国際理解教育」の視点を大切にしながら、今後も様々な国とのICTを活用した国際交流に挑戦していきたい。